

「令和2年度地域管理経営計画等に関する懇談会（書面開催）」における主な意見等

- 胆振東部、宗谷、網走東部森林計画区の実施計画書の施実1ページの2-(2)水源涵養タイプにおける施業群別面積等の区分中に「長期単層林施業群」、「混交林施業群」、「天然生林施業群」が定められ、施業方法は個別に定められているようであるが具体的内容を示してほしい、また、伐期齢又は回帰年が計画区による差、あるいは地位による差はないようであるが適切か。

（森林管理局）

具体的な施業方法については、別に定めている「施業の基準」に記載しており、北海道森林管理局ホームページに掲載しています。

伐期齢については、地域別の森林計画において、主要な樹種ごとに計画区単位で定めることとなっていますが、今年度樹立の森林計画では、計画区による差はありません。

回帰年については今年度樹立計画区のうち、胆振東部及び宗谷は30年、網走東部は20年に設定しています。

伐期齢の計画区による差・地位による施業方法の差がないことについては、計画書や施業の基準に示す施業方法等は標準的な目安として定めているものであり、具体的には現地の状況や条件（地位による成長差等）に応じた施業計画を立案し、適切に施業を実施しています。

- 胆振東部管理経営計画書 14ページ 1-(5)-⑥（アイヌ関連）

この取り組みは重要と思いますので、ぜひ積極的に進めてください。

これにあわせて7-(3) (21ページ) について特にこの地域で積極的な検討をいただくことが重要と思います。

また、ウポポイでは樹木ツアーを敷地内で行っていますが、ウポポイと連携して国有林をフィールドとしてこうした取り組みを6の国民の参加に位置付けて進めることができると、国有林の有効活用・アピール、さらにはウポポイ自体の活動の広がりにつながると思います。

（森林管理局）

アイヌ文化振興への貢献については森林管理局としても重要な取組事項と位置付けています。

計画書に記載のとおり、白老町の「民族共生象徴空間（ウポポイ）」に隣接する国有林（ポロト自然休養林）において、アイヌ文化の伝承・保存に必要な森林産物が持続的に供給できるような森林を育てる等、アイヌ文化を象徴する森林として誘導していくよう取り組み、共用林野の設定等について検討を進めることとしておりますが、具体

的には地域の意向・要請を踏まえつつ、今回のご意見も参考にして取り組んでいく考えです。

- 各森林計画区において、各施策（伐採量、更新量、保育量、林道）の実施量について、計画量に比べ実施量が多い/少ないことと、評価との対応関係がよくわからない。
計画量等との対比で、状況説明は記載されているが、評価については明示されていない。
このことは、次期の計画量の設定にも関連してくると思われるので、次期計画量の考え方を示すことで「評価」もしやすくなるのではないかと。

（森林管理局）

計画書における主要施策に関する評価という部分では、計画量に対する実行量（結果）がどうだったのかということと、増減があった場合、その要因の分析結果として記載していたところです。

それらの要因を踏まえ、次期の計画への反映を考えております。

- 胆振東部、宗谷の計画にも記載はありますが、近年、北海道の主要魚種の資源減が深刻な状況にあることから、10年、20年後の海の環境を豊かにする観点での森林保全を関係機関と連携して進めていただきたい。

（森林管理局）

計画書に記載のとおり、北海道森林管理局長と北海道漁業協同組合連合会長の間で締結した「清流を守り豊かな海を育むための森林づくり活動の推進に関する基本協定書」に基づき、地域の漁業関係者等による「お魚を殖やす森づくり」の活動について、国有林としても連携し、フィールドの提供や技術支援等の協力を行っているところです。